

地震・津波観測監視システムの早期整備と活用への支援

政策提言先 文部科学省

政策提言の要旨

平成24年8月29日に内閣府が発表した「南海トラフの巨大地震による津波高・浸水域等（第2次報告）」によると、本県は、高さ1mの津波が海岸線に到達する時間は最短で3分、最大津波高は3.4mという、全国的に見ても厳しい推計結果となりました。

この早くて高い津波から確実に避難するためには、津波の発生を即時に検知して住民に伝え、避難行動につなげることが重要です。そのため、地震・津波観測監視システムの早期整備と活用への支援を提言します。

【政策提言の具体的内容】

○迅速な避難のためには、地震・津波の即時検知が必要

- ・DONET1（紀伊半島沖熊野灘の海底）は平成23年7月完成
- ・DONET2（紀伊水道から室戸岬沖の海底）は平成28年3月完成
- ・足摺岬沖～日向灘海域は観測網が未整備
- ・早期避難を促す仕組みの構築には観測監視システムの早期整備が必要

○南海トラフ全域における地震・津波観測監視システムの早期整備と活用

1. 早期に足摺岬沖～日向灘海域における観測監視システムの早期整備、空白地帯の解消
2. 地球深部探査船「ちきゅう」による掘削孔の活用などによる地震・津波観測監視システムの高度化及び広域化

【政策提言の理由】

文部科学省地震調査研究推進本部が平成29年1月に公表した長期評価では、南海トラフにおける今後30年以内の地震発生率は70%程度となっており、その切迫度は年々高まっています。

また、南海トラフで発生する地震は、震源域が駿河湾から日向灘まで広範囲であることから、歴史的にも南海地震と東海・東南海地震とが連動発生するなど、多様な発生パターンがあり、広域かつ甚大な被害の発生が危惧されています。

高知県は、高さ1mの津波が海岸線に到達する時間は最短で3分、最大津波高は3.4mと想定されております。津波から確実に避難するためには、揺れがおさまったらすぐに高い所に避難することが基本ですが、津波発生を即時に検知し、住民に伝え、避難行動につなげることが重要です。このため、平成29年1月に「早期津波避難システム検討委員会」を立ち上げ、室戸岬沖で整備されたDONET2等を活用した早期避難を促す仕組みの構築に取り組んでいます。

しかしながら、足摺岬沖～日向灘海域については、観測網が空白地帯となっているため、早期避難を促すうえで大きな課題となっています。また、地球深部探査船「ちきゅう」による掘削孔を活用した計測システムが整備され始めましたが、まだ十分とは言えません。

このため、観測網の拡大及び地震・津波観測監視システムの高度化と広域化を進めることが必要です。

【高知県担当課室】 危機管理部危機管理・防災課